

LIVE

今回のテーマ

水の事故には要注意

●夏本番を前に気をつけたいこと

梅雨のシーズンを前にして、全国的に気温が高く晴れの状態が続いています。

こんな暑さが続くと海や川へ出かけて涼を取りたくなりますね。

でもそんな中、この季節に毎年必ずニュースになるのが水の事故。

被害に遭われる方も毎年多く報じられます。

そこで水辺での事故を防ぐにはどうしたら良いのかを、今回は考えたいと思います。

●場所によって起きる事故の形もさまざまです。

一口に水の事故といっても、起きる場所によって原因や救助法もさまざまです。

おおよそ発生しやすい場所別の事故原因は以下のように分けられます。



●川・湖・ため池 など

- ・橋や崖から飛び込みをしていた際に、深みにはまってしまった。
- ・バーベキュー場などで飲酒後に水遊びをされていて溺れた。
- ・河川の急な増水で流されたり、転落、中洲に取り残されてしまった。

●海

- ・腰に水がかかる程度のところで泳いでいたら、急な高波にさらわれてしまった。
- ・遊泳中に離岸流に流されてしまった。
- ・台風の時に海岸や港の様子を見に行き行って海中に転落した。

●プール

- ・飛び込み時に首を負傷し後遺症が残ってしまった。
(学習指導要領により小中学校では「水中からのスタートを指導する。」と記載され、飛び込みは禁止とされています。)

●万が一のために水遊びの時には準備をしましょう。

プールには監視員や指導員がいますが、川や海では何が起るか予想がつかないもの。

水に入る時にはライフジャケットやラッシュガードを着て、ウォーターシューズを履きましょう(特に川でのビーチサンダルは滑りやすい上に脱げやすいので厳禁です)。

●助けるためにむやみに水に入らない。

泳ぎに自信があるからといって、助けに行くのは要注意です。

溺れている人は無我夢中で掴むため、助けに行った方まで被害に遭う二次遭難も数多く発生しています。

まずは声をかけて落ち着かせ、浮き輪代わりになるものにひもを結び救助対象者に投げるなどしましょう。

浮き輪代わりとしては ①重り代わりに少量の水を入れた1.5～2リットル程度のペットボトル ②クーラーボックス ③1リットル程度の大きさの水筒(魔法瓶タイプなど) ④大型のビニール袋 などがあります。

●事故を確認したらまず電話！！

水の事故を確認したらすぐに119番通報(海の場合は海上保安庁の118番へも通報)してください。

救急車が到着するまで通報から平均5～6分程度かかるとされています。救助後ではなく、先に通報することが非常に大切です。